

創刊110周年記念  
**誇れるふるさと**  
 24地区リレー  
 〈vol.14〉  
**<原④ 散策マップ>**

原地区を歩き、魅力の再発見の参考になるのが「ふるさと原・史跡マップ」と「郷土探訪―総括編」。原郷土史研究会（金重和義会長）が2007年にマップ、14年に総括編を製作した。それらを片手に、原ふれあいセンターを出発点として、梅田川沿いなどを1時間半ほど散策した。



同センターには、原尋常小跡(①)の標柱がある。明治時代、厚南村立の児童は通学が困難だった。そのため、1901年に開校。1、2年生が通い、3年生以上は小畑領まで

**水にまつわる史跡や神社、点在**

**開作と水害の歴史巡る**



通学していた。08年、厚南尋常小原分教場となり、43年に現在の原小の位置に原国民学校が独立開校するまで、この地で教育が行われた。

国道190号の流川交差点に向かつて歩き、左に曲がると上梅田親水公園(②)がある。たびたび氾濫していた上梅田川の改修工事を、宇部市が94年から4年間かけて行い、公園も整備した。河川遊歩道が散歩などに活用されている。2000年には、人の心を和ませる水辺のある空間に贈る、国の「甕(よみがえ)る水100選」に選ばれた。設置されている彫刻は、「小川に魚が帰った日」は、国道190号を車で走るときにも見えて、インパクトがある。

同交差点に引き返し、梅田川沿いを南に向かつて歩くと、庚申塚(③④)と、猿田彦大神塚(⑥)の石がある。この辺り

は開作地帯のため、土地や水の守り神として祭られている。どの塚も手入れが行き届いていて、地域の人たちが大切にしていることがうかがえた。同大神塚そばの橋を渡り、西に向かつて農道を歩くと、流川交差点に通じる道路に出る。北へ少し行くと、右側に水神社がある(⑦)。地区の農業水利のため、山陽小野田市高泊から祭神を迎えて祭ったという伝承がある。

散策してみて、地区には川や水に関する史跡が多く、開作地域の安全と安定した暮らしを願う先人の思いが感じられた。

次回は藤山地区。来年1月17日スタート。